



今日のテーマ



**日本の金融政策**

## Q マイナス金利政策の影響を整理すると？

**A** 一般に、幅広い年限の金利が低下し、企業の借入れが有利になることから経済が活性化する要因と言えます。企業業績にもプラスとなることから、株式などのリスク資産にも好影響が期待されます。

### 【マイナス金利とは】

手数料を払って、預金をするを意味します。日銀は金融機関から預かる当座預金の一部に▲0.1%のマイナス金利を適用することを決定しました。

日銀に先駆けて、欧州中央銀行（ECB）は2014年6月にマイナス金利を導入し、昨年12月には同金利を▲0.3%とする追加金融緩和を行いました。

### 【日銀のマイナス金利導入の狙い】

金融機関に企業への貸出を促すことが狙いです。日銀はこれまでの「量的・質的金融緩和」にマイナス金利を追加し、景気や物価の上振れを目指しています。

マイナス金利の導入公表後、市中金利は大きく低下しました。金利低下により、企業の資金需要が刺激され、金融緩和効果が増すことが期待されます。

### 【マイナス金利政策の影響を整理すると…】

資産	見通し		主なリスク要因				
日本株式		日本経済の活性化が期待され、株価は企業業績の拡大に沿う展開へ 資金調達コストの低下 ⇒ 企業業績拡大 企業が借入れに前向き ⇒ 経済は活性化へ	過度の原油安進行	新興国減速	円高	地政学リスク	米利上げ加速
外国株式		世界経済は緩やかに回復し、株価は企業業績の拡大に沿う展開へ 日欧の金融緩和、米国の利上げペースが緩やか ⇒ 世界経済回復をサポート ⇒ 緩やかな景気回復が持続 ⇒ 企業業績は緩やかに拡大					
世界の社債		社債の利回りが低下し、価格は上昇へ 世界経済の緩やかな回復、長期金利は上昇しづらい ⇒ 財務内容改善、社債の信用力向上 ⇒ 社債利回りに低下圧力、価格上昇					
世界のリート		低金利環境が、リート市場を下支え リーートの資金調達コスト低下、不動産市場の回復 ⇒ リートの収益性改善					
日本国債		国債の利回り水準はマイナス圏へ マイナス金利となっても、安全資産としての底堅い魅力	原油反発	新興国回復			

(注) 上記イメージ図は三井住友アセットマネジメントが作成したものです。実際とは異なる場合があり、また、将来を約束するものではありません。

(出所) 各種情報を基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。